

自閉スペクトラム症当事者と その「きょうだい」の感覚特性の相関について

研究へのご協力をお願い

自閉スペクトラム症（ASD）者の中には、感覚への過敏さや鈍感さがある方がいます。このような感覚の特性は日常生活の困りごとにつながる可能性があります。

本研究では、ASD 当事者の方とそのきょうだい、そして保護者の方にアンケートへご協力いただき、ASD 当事者ときょうだいの感覚特性にどのような関連があるのかを検討します。また、本人視点での評価と保護者視点での評価の関連についても調査したいと考えています。

研究対象者

以下の条件をすべて満たす方（1 家系 3 人）

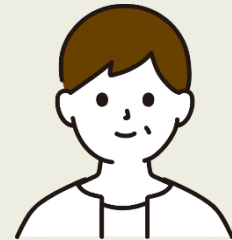


- ・ ASD と診断を受けている
- ・ 18 歳以上 64 歳以下

両親が同じ



- ・ ASD と診断を受けていない
- ・ 18 歳以上 64 歳以下



③保護者

- ・ アンケートへの回答をしていただくため、知的障害のない方を対象とします
- ・ 本研究では、1 家系につき 3 人に回答をお願いします

調査内容

以下のアンケートの回答をお願いします（所要時間は 1 人 約 30～40 分）

● ①当事者・②きょうだい

- ・ 感覚特性が一番目立った時期
- ・ 感覚経験
- ・ 社会的カモフラージュ
- ・ きょうだい関係
- ・ ASD 傾向
- ・ ころの健康状態



● ③保護者

- ・ 続柄、年齢
- ・ 子どもの合計人数、子どもの性別
- ・ ①と②の人についての基本情報
- ・ ①と②の感覚経験について、保護者の視点から回答



参加謝礼

お 1 人につき、アマゾンギフト
カード 1000 円分

（ご家族 3 名で合計 3,000 円）

《連絡・問い合わせ先》

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻作業療法学分野
教授 今村明

〒852-8520 長崎市坂本 1-7-1

☎ : 095-819-7992

✉ : aimamura@nagasaki-u.ac.jp

詳しい研究の説明はこちら



<https://youtu.be/Qhidrkqbj7g>